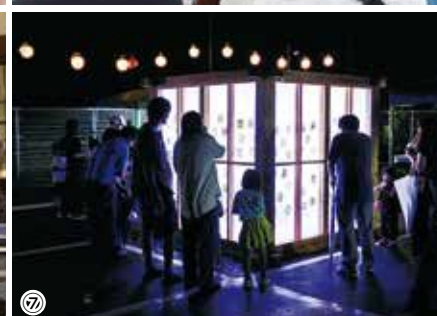




市内各地で夏祭り開催

市内各地で夏祭りが開催され、今年も栗原の夏を熱く盛り上げました。
江戸時代から続く伝統の祭りや創意工夫が詰まった催し、幻想的な雰囲気の花火大会が開催されるなど、栗原の夏の光景が各地区に広がり、どの会場にもにぎわいました。

躍動する 栗原の夏



- ①きらびやかな9台の山車が競演した、くりこま山車まつり
- ②手作りみこしが会場を盛り上げた、第69回泉のふるさと“たかしみず”夏まつり
- ③しずはた姫コンテスト2026(中央が今年のミスしずはた姫)
- ④築館薬師太鼓が会場を沸かせた、つきだて七夕まつり
- ⑤文字甚句も盆踊りもみんな一緒に、うぐいすの里夏まつり
- ⑥白熱したソフトクリーム早食い競争、はなやま夏まつり
- ⑦大型灯ろうに願いを込めた、一迫地区の第31回灯ろう祭
- ⑧地元中学生のパフォーマンスが映えた、2026せみね夏祭り
- ⑨⑩手作りの丘絵灯ろうが幻想的に会場を飾った、若柳夏まつり花火大会



身近な工場を親子で学ぶ

7月21日(火)から8月7日(金)にかけて、市内13事業所で「親子工場見学ツアー in くりはら」を開催しました。この催しは、市内の事業所を子どもたちに知ってもらい、将来的な人材確保を目的に県と市が共催したもので、今年で4回目の開催になります。

このうち、7月28日(火)に開催した伊藤ハム米久プラント株式会社東北工場の見学では、親子など18人が、商品の製造工程を学んだ他、商品の飾り切りなどを楽しみました。



市工芸展に力作そろそろ

8月4日(火)から9日(日)にかけて、栗原文化会館で「第29回栗原市工芸展」を開催しました。この催しは、市内を拠点に活動する陶芸や彫刻家などの工芸作品を展示しようと開催したもので、毎年多くの来場者でにぎわいます。

期間中、会場には、つばや大皿、能面、ヒョウタンを材料にしたランプなど約140点の作品が展示され、訪れた人たちは、作品のテーマや制作の様子作家に質問をしながら、じっくりと1つ1つ作品を鑑賞していました。



神楽の魅力を未来へつなぐ

7月19日(日)、栗原文化会館で「第4回くりはら神楽まつり」が開催されました。

この催しは、宮城県北・岩手県南を中心に伝わる郷土芸能「南部神楽」の保存と伝承を図るため、栗原市神楽保存伝承協議会が開催したものです。

当日は、市内で活動する8団体が、神に奉納する式舞や、物語を題材とした劇舞を披露し、訪れた約330人の来場者は、長く受け継がれてきた神楽を間近でじっと見入り、時折拍手を送るなどしながら、その魅力に引き込まれていました。



プロ直伝バレーボール教室

8月1日(土)、若柳総合体育館で「豊田合成東日本(株)ウルフドッグス名古屋バレーボール教室」を開催しました。

バレーボールの国内トップリーグに参戦するウルフドッグス名古屋のスタッフで、市出身・元選手の佐藤和哉さんと、現役選手の山崎彰都さんを講師に、市内の小・中学生約90人が2時間にわたる技術指導を受けました。子どもたちは、トップレベルの技術を間近で感じながら、基礎から実践的なプレーまで、真剣に取り組みました。